

令和5年度 猪名川町立大島小学校 学校関係者評価

【学校教育目標】 自ら考え、自ら行動し、生き抜く児童の育成

めざす学校像	めざす児童像	めざす教師像
<ul style="list-style-type: none"> 笑顔あふれる学校 思いやりとやる気に満ちた学校 地域とともにある学校 共感・共汗・共歓できる学校 	<ul style="list-style-type: none"> 自他ともに認め合える子 地域に誇りと愛着をもつ子 めあてをもち自ら学ぶ子 粘り強く考え深く学ぶ子 自他の命を大切に守る子 自分の健康を自分で守る子 	<ul style="list-style-type: none"> 確かな専門性と指導力を身につけた教職員 豊かな人間性と情熱をもち、すべての子どもを大切に守る教職員 研修に励み、創意工夫し、変革に挑む教職員 バランス感覚に優れ、保護者・地域から信頼される教職員

学校運営協議会委員 評価総評
<p>みんながチーム大島の一員としてより良い方向へ協力し合って行動しましょう。</p> <p>教職員の皆さんには、日々子どもたちのために考え、行動していただきありがとうございます。今後も地域全体で子どもたちを見守るよう大島らしく頑張ってください。</p> <p>自分でもっと良い児童像を思い描き、自らの力で考えられる力を養う学校を工夫する必要があります。少人数で先生方はよく頑張ってくれていると感じています。十分な分析と改善策を考えられています。学校を極力開いていってほしいです。</p> <p>今年度は、大人も子どもも挨拶ができていない。保護者も返りのせいか挨拶ができていません。</p> <p>文章は表現できて実践に問題あり。子どもも大人も成長の場が必要。小規模校の強みを生かし、個々の児童の背景も理解しながら対応されていると感じる。今後も、地域や地域の学校園と連携しながら、児童理解を深めていただきたい。園でも意識し、取り組んでいるが、大人が気づき、声をかけすぎず、子どもも自らが、困ったり、失敗したりする経験を多く積み、どうすれば良かったかを考え、助けを求めたり、相談できる力が将来必要になる。校区間で連携し、意識を共有していきたい。</p>

(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない) 評価 A:80%以上 B:70~79% C:60~69% D:59%以下

(◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない)

領域	評価の観点	教職員										評価	改善方法	学校運営協議会委員の提案など		
		A	B	C	D	無	AB評価	昨年度	改善方法							
開かれた学校づくり	学校便り、学年便り、ホームページなどで教育方針や教育内容など、学校情報を積極的に発信している	65%	35%	0%	0%	0	100%	100%	A	・大島小学校創立150周年を冠に、運動会や音楽会などの行事を地域と一緒にやった。 ・オープン参観については、地域の方々があり来られていない。今後の状況次第ではあるが、地域の方や学校運営協議会のみならず、子どもたちの様子を気軽に見に来れる様な広報を考えていきたい。 ・学校運営協議会を核として、子ども達に普段でできないような体験の機会を創出した。			◎ 20% ○ 70% △ 10%	<ul style="list-style-type: none"> 今年は大島フェスティバルに幼稚園や地域の方の参加が少なく残念に思った。オープン参観などもっと周知してほしい。150周年式典では、ほとんどの先生方が参加し、これなら平日開催で先生たちに代休を上げたいくらいだった。 コロナ禍では、地域住民が学校に多く来てもらえるような企画や環境整備をしなければいけないと考える。 最近開かれた云々良く聞く言葉です。(大島小学校区は)地域の特殊性という昔から関わりは強いと思います。このまま継続していければよいと思います。 発言された学校情報の共有の仕方、あり方をもう少し掘り下げて考えたい。告知、周知の方法に更なる工夫や考えが必要。 高齢化が進む中、地域の人々に学校に来てもらうことが難しくなっている。カリキュラムがきついな中だが、子ども達が地域に出かけて行くというやり方も取り入れてはどうか。 改善策に加え、学校が地域の人へのイベントなどをすれば、より多くの人に来てもらえるのではないかと。 具体的にどのような広報をされるか、又地域の方々や学校に気軽に訪れる機会をどのように作って行くかが大事だと思います。学校が開かれることに対しては大変だと思いますが、先生方の苦勞も分かってもらえるように繋げていきたいです。 オープン参観があることの告知など、情報発信があまりないように思う。HPの行事予定表を見れば分かるのですが、事前に知らせたい。大島フェスティバルがある事も知らなかった。 総じて地域、まち協との関わりが薄い。労働時間との関わりが大きいと思うが、何か改善が必要。 参観などの行事を学校間で調整していたが、自園の行事と重なり、足を運ぶことが出来にくかった。卒園した子どもの様子を知る意味でも、来年度以降は、積極的に様子を見に行く機会を作っていきたい。 		
	学校の教育活動に保護者や地域の方に参加していただけるように努めている	71%	24%	6%	0%	0	94%	100%	A							
	地域の行事や活動に参加するなど、積極的に地域と関わりを持っている	47%	47%	6%	0%	0	94%	100%	A							
	コミュニティスクールとして、学校や子どもの課題を保護者や地域と共有し、取り組みが進められている	56%	31%	13%	0%	1	88%	100%	A							
学校組織 教職員の資質向上	教職員が校務分掌を責任を持って果たし、組織が十分機能している	56%	31%	13%	0%	1	88%	100%	A	・子どもたちや地域の実態をふまえてどんな力を育てるのか、中学校に向けてどんな力をつけるのか、共通理解が必要である。定期的に中学校区内の学校での情報共有を図ってきたい。			◎ 30% ○ 70% △ 10%	<ul style="list-style-type: none"> 少ない人数の中で、なんにでもたくさん機会が与えられているから、清陵中でも前に出ることを堂々とできる大島っ子が多いと感じます。(子どもは)知らず知らず先生方のおかげだと思います。 今後あいつワクワクプランが導入されますが、少ない人数でも大島は大島らしく子どもたちのために頑張っていきたい。 教職員と協議会が相互理解できる場を持ちたい。意見交換や情報交換から得る知見や理解は重要と考えます。 この大島だからこそできることをまずあげてみてはどうか。大島だからこそつけてやる力や経験を十分にさせてやることを共通の意識として持たせたい。何かがはつきり分かつたとき。 教職員の資質向上にはゆとりの時間を設けることが肝心だと思う。だから何をやるのではなく、ゆとり時間をどう作るかを考えるのが資質向上の第一歩だと思う。 この一年、大島らしい先生方活発さがありません。地域の者ですが、大島に来て楽しくありません。子ども達も自分たちから挨拶しない子が多い。 幼少交流やプールを使用させていたなど、大島へ行かせていただいた際の職員の方々の対応がとても温かく感じ、園児にとっても就学する不安が払拭されるように感じました。 		
	職員会議やその他委員会が効率的に行われている	33%	67%	0%	0%	2	100%	100%	A	・大島の教職員は、少ない人数ながら日々子どもたちのために動いていると感じる。お互い思いやりをもち、同じ目標に向かって進むために、これからは「チーム大島」として心を一つにがんばってきたい。						
	教育目標やねらいに沿って教職員が協力して取り組んでいる	44%	50%	6%	0%	1	94%	100%	A	・今年度、大島小学校の子どもたちにつけたい力を確認し、課題解決に向けた方策を探ってきたい。						
	研修テーマが大島小学校の課題に即しており、充実している	25%	75%	0%	0%	1	100%	100%	A							
校種間連携	幼小中の連携を推進するための組織や計画が確立されている	25%	75%	0%	0%	1	100%	63%	A	・縦のつながり、横のつながりを意識した交流の機会をつくってきたい。今年度は、清陵中学校区の3小学校における交流を2回行った。また、幼稚園との交流も行った。実施主体をどこにするのか、実施方法・内容をどうするのか役割の明確化を行ってきたい。			◎ 40% ○ 50% △ 10%	<ul style="list-style-type: none"> 清陵中は町内全学区になるので、3小学校以外との交流もあっていいのと思います。 機会や、移動手段、時間を調整することは難しいと思いますが、できる範囲で回数を増やしてほしい。 子ども同士の交流も大切だが、教師間の交流がもっと必要ではないか。教師自身が中等等を知らなすぎず。 子ども達にどんな内容で交流したかを聞いてもいいかも。 小6の子ども達には、直接中学生から学校生活の話も聞く機会を作れる方がよい。 1中学校に進学することを踏まえ、3小学校で児童同士の交流が出来ていることは継続し、中学校入学時の段差を少しでもなくしていける事を願う。 交流の年間計画を年度初めに立てていきたい。 校区内の教師間の情報共有などは、細やかにいられ、学校の様子などがよくわかったので、今後も相談し合える関係でありたい。 		
	幼小中の学びの連続性を踏めた指導を心がけている	40%	47%	7%	7%	2	87%	73%	A	・さらに校外学習などの機会をうまく利用して、交流を深めたい。						
学校の情報化	ICTを活用して授業を進めようとしている	63%	38%	0%	0%	1	100%	100%	A	・今年度は2学期より、オンラインを実施している。やはり、やらないと忘れてしまうので、定期的に試していきたい。情報担当がいろいろ工夫しながら活用する機会をつくっている。			◎ 44% ○ 55% △ 10%	<ul style="list-style-type: none"> 高学年はタブレット宿題を取り入れるのもありじゃないですか！先生方もO付けすぐできる。 学校に来ていない子のオンライン授業はコミュニケーションをとりながらできていますか。一方通行はやめて欲しい。 		
	校務用PCを活用し情報の共有や業務のスムーズ化に寄与している	38%	56%	6%	0%	1	94%	82%	A	・共有フォルダの整理整頓は、年度末や学期末など定期的に行うようにしたい。						
	電子データ、紙媒体など種類にかかわらず、情報管理を徹底している	56%	38%	6%	0%	1	94%	100%	A	・ネット環境の不具合、導入ソフト等の使用実感については、よりよいICTの環境を気づくため、積極的に教育委員会への情報提供に努めたい。						
信頼される学校づくり	保護者が安心して子どもを任せ、子どもの成長に満足している	38%	56%	6%	0%	1	94%	100%	A	・保護者対応については、一人で抱え込まず、複数で対応する。また、記録を随時とっておく。			◎ 10% ○ 80% △ 10%	<ul style="list-style-type: none"> しょうもない意見を言う親が増えたなど同じ保護者でも思うのに、よく相手してくれていると思います。 評価はAですが、BやCが少しでもAに近くなるようによろしくお願いいたします。 働き方改革など、昔と同じには無理だが、保護者との距離を近づけることを第一にやってみるべきだと思う。 保護者からの相談を学校だけでなく、学校運営協議会の場でいろいろな立場の意見を聞いてみては。 保護者と向き合うだけでなく、なぜ対応することになった背景から考え、伴走するイメージで取り組まれるのは？ 子ども達は毎日先生を見ています。懇談や参観の時だけ気をつけても毎日の情報が勝ります。 		
	保護者が安心して子どもを任せ、子どもの成長に満足している	38%	56%	6%	0%	1	94%	100%	A	・各種の行事について、主催がどこか明確にしたうえで進めていきたい。						
教育課程	授業日数や授業時数の配当及び時間割・校時表が適切かつ効果的に配当されている	60%	40%	0%	0%	2	100%	100%	A	・児童アンケートでは、昨年度に比べ若干減少しているものの、「勉強がわかる」と感じている児童は多い。客観的な資料を利用して、苦手なところをフォローしていく。			◎ 44% ○ 55% △ 10%	<ul style="list-style-type: none"> 子どもから話を聞くと、やはり一方的に話す先生の授業は分かりにくいようで、「教師主導型にならないように」ということが共有されればと思います。 体験的な学習は特別に時間を作らずとも、日常生活の中にあることを関連づけることで実感しやすく、何を学んでいるかが自分につながりやすくなると思います。 小学校でできていないことが中学校になってできるようになるとは考えにくい。学習面では、学習指導要領の内容は最低限習得させることを目標にして下さい。生活面では、基本的な生活習慣を身に付けさせてください。 		
	指導内容・指導方法の工夫など、わかる授業づくりに取り組んでいる	56%	38%	6%	0%	1	94%	100%	A	・授業においては、教師主導型にならないよう、子どもの発言をクラスで広げたり、子どもたちでつないでいくことなど、研修していく必要がある。						
	言語活動の充実や体験的な学習を取り入れている	47%	53%	0%	0%	2	100%	100%	A	・福祉や防災、キャリアや環境などいろいろな領域において講師を招聘し講演をしていただいた。本物との出会いが子どもたちの学習に向かう姿勢につながればと考える。						
特別支援教育	特別支援教育に対する理解を深め、教職員の共通理解のもとサポート体制が整備されている	60%	40%	0%	0%	2	100%	100%	A	・すべての児童を、担任だけでなく教職員全員で見守ることが大切であり、支援が必要な児童に対しては、実態を適切に把握し、適切な指導や支援を組織的に行っていく。			◎ 40% ○ 60% △ 10%	<ul style="list-style-type: none"> 多人数の学校だと支援の先生だけがかわっているのをよく見ますが、大島では全ての先生が関わっているように見えるので子どもにとってもいいと思います。 グリーゾーンの子について、小学校生活では差し支えなくても、中学校に行くとき出てくるので、しっかり把握して欲しい。 就学後の様子も交流する機会があれば、学校は児童の対応に、園は活動の取り組み内容にそれぞれ反映できるのではないかと考える。 就学後の様子も交流する機会があれば、学校は児童の対応に、園は活動の取り組み内容にそれぞれ反映できるのではないかと考える。 		
	個別の指導計画に基づいて指導方法を工夫し、児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導を実践している	24%	76%	0%	0%	0	100%	100%	A	・支援の必要な児童を適切にSC、SSW、支援センター、学校教育指導員などの関係機関と繋げていく。また、通級指導等個に応じた学習の推進により、生活上・学習上困り感を持っている児童の支援を、これまで以上に充実させていく。						
	関係機関や専門家との連携が円滑に行われている	19%	75%	6%	0%	1	94%	100%	A	・就学、進学時のタイミングでの接続を円滑にするため、就学前・進学先の学校園との情報共有をしっかり行う。						
進路指導	児童に将来の夢や希望をもたせ、仕事や働くことの大切さを教えている	35%	65%	0%	0%	0	100%	100%	A	・児童それぞれが社会とのつながりや社会における自らの役割を考慮することができるよう、家庭や地域と連携し、自然体験・社会体験・ものづくり体験などの社会に触れる機会を充実させていきたい。			◎ 44% ○ 44% △ 11%	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習先での、働いている方との交流もいい刺激になっていると思います。 直接体験だけでなく、地震、戦争など今の社会のことで話し合うのも良いと思う。 社会に触れる機会を大人が提供するだけでなく、子ども達が主体的に考えられるような取り組みになれば。 		
	教職員の共通理解のもと、問題行動の未然防止に努めている	38%	63%	0%	0%	1	100%	80%	A	・教科指導をはじめ、あらゆる場面を通して児童生徒が自他の個性を尊重し、よりよい人間関係を主体的に形成しようとする学級、学校づくりの推進と充実を図ってきたい。						
																<ul style="list-style-type: none"> 家庭環境にもよるとは思いますが、「でも」だっけから話しはじめると低学年がめっちゃ多い気がします。それが学校や先生のせいだと思ってる親も多くなって、意味わかりません。

豊かな心	生徒指導	学習規律を身につけさせ、好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級づくりができています	65%	35%	0%	0%	0	100%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携して校内相談体制の充実を図るとともに、教職員への事案への対応能力の向上を図りたい。 ・児童生徒への日常的な挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話等を通じた信頼関係の構築や、暴力行為の前兆行動に関するアセスメントの充実、保護者と協力した指導・援助及び子どもに係る関係機関との連携を強化していく。 	◎ 40% ○ 60% △	◎ 50% ○ 40% △ 10%	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の変化に最も早く気づく場所が学校で、先生だと思いません。それぞれの業務をしながらその変化に対応するのは大変なことですが、気づいてあげるためにコミュニケーションを引き続きしっかりとって欲しい。
		児童の内面理解に努め、スクールカウンセラー等の教育相談が効果的に機能している	38%	63%	0%	0%	1	100%	100%	A				
		いじめは絶対に許さない毅然とした態度を示し、いじめの早期発見、解決に向けた体制を確立している	44%	56%	0%	0%	1	100%	100%	A				
		学校に来にくい子に対して、保護者や生活指導員、各関係機関と連携し、本人や保護者の意思を尊重しながら対応している	47%	47%	7%	0%	2	93%	100%	A				
豊かな心	道徳教育	全体計画が作成され、全教育活動の中で道徳性を育成するよう取り組むとともに道徳の時間の指導を工夫している	29%	65%	6%	0%	0	94%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育との絡みも考えながら、カリキュラムや評価等問題点はないか、点検が必要である。 	◎ 38% ○ 63%	◎ 38% ○ 63%	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の皆さんも積極的に道徳や人権学習に取り組んでいただきたい。
		人権教育指導計画にもとづき、全教育活動の中で、人権意識を高める指導を工夫している	47%	53%	0%	0%	0	100%	100%	A				
		行事の内容が充実するとともに、望ましい集団活動を通じて自主的・実践的な活動の活性化が図られている	41%	59%	0%	0%	0	100%	91%	A				
		・今年度は、児童朝会やミニ発表会などで、みんなの前で「話す」、「伝える」ことができた。教職員にとっては、その準備が大変だったかもしれないが、子どもたちは、自信をもって、堂々と発表できていた。授業の一部を発表するなど、負担にならないようにしながらも、このような機会は大事にしたい。 ・クラブについては、今後も子どもの数が減少する。委員会活動と併せて実働的な組織の構築が必要である。 ・応援合戦や大島フェスティバルなど子ども主体で話し合う時間は、子どもたちに任せ、教師はサポーター役に徹する。しかしながら、思うように進まないケースが散見される。年度当初から、児童への意識付けが必要。												
健康・安全	危機管理体制の整備	災害や事故発生時のマニュアルが整備され、全教職員が共通理解して実行に移せる	69%	25%	6%	0%	1	94%	91%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、避難訓練等の充実や教職員の危機管理能力を高める実践をしていく。 ・登下校時など地域の見守りの方々に大変お世話になっている。細かに児童の登校の様子を教えてください。素早く対応できる。 ・来年度で阪神淡路大震災から30年を迎える。また、以降も人命が奪われる災害が数年おきに発生しており、将来に向けても危惧されているところである。自分の命を大切にするとともに、他者の命も大切にできるよう、児童、教職員などへ防災・減災に対する学びを続けていきたい。 	◎ 50% ○ 40% △ 10%	◎ 60% ○ 40% △	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者や雷雨時などのミマモルメ配信が素早く行われているので、ありがとうございます。 ・いつ、どこで、そんな災害が起こるのか予測困難ではありますが、想定外の災害に向けて備えも大切にしていただきたい。 ・いつ何が起こるか分かりません。様々な事態を想定した訓練が必要です。その面で、ホイッスルの常時携帯は良い対策だと思います。ホイッスルは①事案の発生を知らせる。②避難指示③応援のよう要請に有効なアイテムです。 ・危機管理、子ども、大人問わず意識が低い。具体的体験を
		避難訓練等を実施し、緊急時に児童が命を守る行動がとれるよう指導ができています	47%	47%	6%	0%	0	94%	100%	A				
		研修や訓練を通して、教職員の危機管理に関する実践力を高めています	35%	59%	6%	0%	0	94%	100%	A				
	健康・安全	健康で安全な生活ができるための指導ができています	33%	60%	7%	0%	2	93%	100%	A				
施設・設備の点検を定期的に実施し、清潔で美しい学習環境が整っている		44%	56%	0%	0%	1	100%	100%	A					
健康な食生活を送るための指導が計画的に行われている		33%	60%	7%	0%	2	93%	100%	A					